

歴史から学ぶ「福山」

郷土の

きょうどのいじん

— 第7回 —

偉人たち

皆さんが暮らす福山市には、かつて偉業を成し遂げた多くの先人がいます。しかし、今ではその名を聞くことが少なくなってしまった人たちもいます。そんな忘れられた郷土の偉人たちを紹介します。



カメラ試作機
KWANON(カンノン)
↓
CANON(キヤノン)



執筆
アrita 宏幸
エフエムふくやま
専務取締役 局長
田中 宏行
(福山市立南小学校
卒千の学校出身)

初の国産高級35ミリカメラを作ろうとした男

吉田五郎、大学機械工學部「キヤノン(旧・精機光学研究所)」の創設者の一人が、福山出身の吉田五郎ということをご存知でしょうか。

1900年(明治33年)、福山市の裕福な家にもまれた五郎は、小学生の頃からカメラを分解し組み立てるのが大好きなカメラ少年でした。1915年(大正4年)、福山中学校現・福山誠之館高校に入学しますが、1917年(大正6年)、卒業半ばで退学し、上京。

上京後、五郎は映写機や映画用撮影カメラの修理改造の仕事をしました。仕事で中国・上海に行ったり、あるアメリカ商人から、日本には素晴らしい軍艦や飛行機があるからカメラづくりを作れるだろうと言われ、五郎は国産高級35ミリカメラの製作を決意しました。

1932年(昭和7年)には、ドイツのライカが高級35ミリカメラを発売、世界的なブームから熱狂的に支持されました。

このような中、1933年(昭和8年)11月、五郎はライカに匹敵する高級カメラ作りを目指して、結婚して

吉田五郎

よした ころう (1900-1993)



写真提供：キヤノン株式会社

キヤノン(旧・精機光学研究所)の創設者の一人

五郎退所後の研究所は、1935年(昭和10年)に試作機KWANON(カンノン)に発売が似ている「CANON」(キヤノン)(英語で「聖典」「規範」「標準」という意味)を商標登録。そして、キヤノンの高級35ミリカメラ第一号機「ハンザキヤノン」を完成させ、1936年(昭和11年)に発売。本格的にカメラメーカーとして歩み始めました。五郎不在の中で初の国産化という五郎の夢が実現しました。

研究所はその後、1937年(昭和12年)に精機光学工業株式会社として法人化。1949年(昭和24年)にキヤノン株式会社社名を変更し、現在に至ります。初の国産高級35ミリカメラを作ると、五郎の夢から、日本を代表する世界的な精密機器メーカー「キヤノン」が誕生したのです。

※キヤノンは、会社名や製品名(「キヤノン」は誤り)「キヤノン」ではなく「キヤノンの」で表記することです。女性への敬称として「キヤノンの」は避けてください。